

	<p>7 楽器のあとしまつをする。</p>	<p>2 7 楽器の整理を指示する。 ・楽器をていねいに定位置に片付けさせる。</p>	<p>・楽しく合奏ができたかをメモする。 ・よくできなかったところはどこかメモする。 7 楽器の整理を援助する。</p>	<p>○人数が多い ○楽器がいろいろある ○楽器がひける よくできなかった ○笛ができない ○思うようにできない</p>
--	-----------------------	---	--	--

7. 検 証

(1) 題材の取り扱い

- ① 2 学年合併集団による授業の第 1 年次として、器楽領域をとりあげたことは、楽器の導入、場面の構成で従来にない満足感がもたれた。
- ② 複数の教師で検討し、題材構成の協同作成により、内容・方法が具体的に、教育機器の活用も効率的に位置づけられた。
- ③ 本題材を 4 時限取り扱いとしたが、児童の実態から段階的に展開もでき適切であった。

(2) 基 調 案

- ① 基調案の形式については再検討をした。
- ② 基調案の作成により、教材研究が充実し、内容も深まり、効率的であった。
- ③ 教師の特性が生かされ、役割分担に主体性ももたれた。

(3) 教授過程

- ① 合併授業により（学年団のわくをはずし集団の再編成を行ない）器楽合奏を実施した結果は、器楽合奏の楽しさ、音の美しさをじゅうぶん味わわせることができた。
- ② 協力分担による授業の結果は、各パートの指導が効率的で、ねらいが的確には握された。
- ③ 教師相互の話し合いが具体的にないためか、相互に消極さがみられた。
- ④ 役割分担に主体性が足りなかった。

(4) 教師の役割分担

- ① 「教授と分担」らんの内容をもう少し具体的にする必要があった。
- ② 教育機器の活用はじゅうぶんであり、観察面も援助と平行して行なわれ個別化は徹底された。
- ③ 教材研究が高まり、内容の深化がみられた。

(5) 児童の受容

- ① 学習に興味をもち、積極性がみられた。………
………21/32人
- ② 自分のパートに責任と協力する態度がみられた。
………25/32人

③ 音楽の家庭学習も見られるようになった。………
………18/32人

(6) 教師の自己調整

- ① 学習カードを利用した結果は、各パートごとの演奏技能の高まりをみることができ、教授過程を吟味することができた。
- ② 児童は学習カードの使用により、いろいろな楽器の組み合わせがわかり、個人ごとに練習する態度がみられるようになった。
- ③ 教授の過程に充足感をもつことができ、全過程をとおして満足感をもつことができた。

(7) 児童の反応

- 合併授業について、児童に次のような反応がみられた。
- 人数が多いので、音がきれいでゆかいだ。
 - 3・4 年が力を合わせてするとい音ができる。
 - いろいろな楽器がたくさん入っておもしろい。
 - 人数が多いとにぎやかで楽しい。
 - 4 年生に教えてもらったので早く覚えられた。
 - へたにできると 3 年生に笑われるからいやだ。

(8) 父兄の意識

- 合併授業について、感想をよせてくれた 13 人の意見をまとめると次のようである。
- はじめてなのでよくわからない。
 - 学習にもり上がりが見られる。
 - 体育、音楽、図工の教科位で、他の教科は考えものでないか。
 - 学年差がないか、どうか少し心配である。
 - 2 教師で教えると変化もありがたいへんよい。
 - 全教科を学級担任でやるよりも新鮮味があり、たいへんよい。個性も伸びると思われる。
 - 教科によっては合併もよいと思う。

以上のことは、小規模小人数学級校における教育活動の一改善の考え方と、その実践のあり方を示したものであるが、今後にも多くの問題を残している。ご検討、ご助言をいただければ幸いである。